

研究所彙報

一 二〇一三年度研究所・所員リスト

- 教授 浅野 富美枝(家族社会学・ジェンダー論)  
准教授 市野澤 潤平(文化人類学)  
教授 今林 直樹(社会学・政治学)  
教授 井上 研一郎(近世美術史)  
教授 菊池 勇夫(日本近世史)  
准教授 木村 春美(第二言語習得・英語教育)  
教授 九里 順子(日本近代文学)  
教授 松浦 光和(心理学)  
教授 森 雅彦(西洋美術史)  
教授 J. F. モリス(日本文化論)  
教授 大平 聡(日本古代史)  
教授 佐藤 幸也(情報科学)  
教授 新免 貢(宗教学)

- 准教授 杉井 信 (社会人類学)
- 教授 高田 紀代志 (科学史・科学論)
- 教授 田中 一裕 (生態学)
- 教授 土屋 純 (地理学)
- 教授 豊澤 弘伸 (国語教育)
- 教授 八木 祐子 (文化人類学)
- 教授 吉村 典子 (西洋建築デザイン史)
- 客員 阿部 隆 (日本女子大学教授・人文地理学)
- 客員 一条 孝子 (宮城学院女子大学非常勤講師・キャリアアカウンセリング論)
- 客員 今高 義也 (宮城学院中学校・高等学校教諭・日本思想史)
- 客員 岩川 亮 (元宮城学院女子大学准教授・フランス語学・文学)
- 客員 遠藤 みどり (日本学術振興会特別研究員・日本古代史)
- 客員 犬飼 公之 (宮城学院女子大学名誉教授・古代文学)
- 客員 大石 泰夫 (盛岡大学教授・日本古代文学)
- 客員 大迫 章史 (仙台白百合女子大学准教授・近代日本高等教育史・近代日本教育制度史・教育行政学)
- 客員 後藤 純子 (元大阪市立大学文学部助教授・インド学・宗教学)

客 研究員	後藤久太郎（宮城学院女子大学名誉教授・建築史）
客 研究員	佐々木民夫（岩手県立大学教授・日本文学）
客 研究員	妹尾哲志（専修大学法学部准教授・政治史）
客 研究員	高橋泉（仙台白百合大学教授・文化人類学）
客 研究員	富永智津子（元宮城学院女子大学教授・東アフリカ・インド洋地域近現代史）
客 研究員	中村忠生（兵庫県立西宮香風高等学校教諭・教育心理学）
客 研究員	丸山仁（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史）
客 研究員	豊山亜希（国立民族学博物館外来研究員・東アジア美術史）
客 研究員	割田聖史（青山学院大学准教授・西洋史）

## 二 共同研究について

本年度の共同研究のテーマは次の通りである。

「南島における民族と宗教」

「多民族社会における宗教と文化」

「キリスト教文化の受容と変容」

「家族文化の総合的研究」

共同研究の成果として、次の冊子が刊行された。

『沖繩研究ノート』 23

『多民族社会における宗教と文化』 No.17

三 二〇一三年度研究所活動報告

公開講演会

二〇一四年一月二七日(月) 午後五時一〇分より午後六時四〇分(≡本学第二講義館三階K三〇一第二視聴覚教室)

「言論民主化運動から『ハンギョレ新聞』創刊へ―韓国民衆とジャーナリズムのダイナミズム―」

講師 森 類 臣(立命館大学コリア研究センター専任研究員)

公開研究会

二〇一三年四月一九日(金) 午後五時一〇分より午後六時三〇分(≡本学人文館五階A五四九大会議室)

「厩戸皇子立太子の構想―「聖徳太子」の創成―」

報告者 大 平 聡(本学人間文化学科教授)

二〇一三年六月一三日(木) 午後三時四〇分より午後六時(≡本学人文館五階A五〇四演習室)

「女帝即位の歴史的意義」

報告者 遠 藤 みどり(本研究所客員研究員、日本学術振興会特別研究員)

二〇一三年七月二九日(月) 午後五時一〇分より午後七時(≡本学人文館五階A五〇四演習室)

「応天門事件の再検証」

報告者 鈴木琢郎（本学非常勤講師）

二〇一四年三月一日（土）午後一時三〇分より午後五時（Ⅱ本学第二講義館K三〇一教室）

「論争 持統〈篡奪〉王権論」

報告

「持統王権の歴史的意義―史料を読み解く視点―」

報告者 義江明子（帝京大学史学科教授）

「吉野盟約の意味―持統篡奪王権への疑問―」

報告者 大平聡（本学人間文化学科教授）

「皇后制の成立と持統王権」

報告者 遠藤みどり（本研究所客員研究員、日本学術振興会特別研究員）

コメント

「不改常典と持統天皇」

報告者 中野渡俊治（花園大学日本史学科准教授）

後援 仙台古代史懇話会

三線講座

二〇一三年一〇月一〇日（木）午後五時一〇分より午後七時（Ⅱ本学講義館六階C六〇九）

「初めての三線」

講師 山里純一（琉球大学教授）

〈南島における民族と宗教〉

公開研究会

二〇一三年七月二十六日（金）午後五時一〇分より午後七時（≪本学人文館五階A五四九大会議室〉）

「琉球国王肖像画〈御後絵〉の再生と朝鮮国王肖像画〈御眞〉との比較」

報告者 佐藤文彦（画家・沖縄大学、沖縄県立芸術大学非常勤講師）

二〇一三年一月二十八日（木）午後五時一〇分より午後七時（≪本学講義館六階C六一二〉）

「琉球方言の言語的多様性は日本語の枠を超える」

報告者 狩俣繁久（琉球大学教授）

〈多民族社会における宗教と文化〉

公開研究会

二〇一三年七月二十四日（水）午後四時より午後六時（≪本学人文館五階A五四九大会議室〉）

「英領期の北インド・ラージプターナーにおける商家建築ハウエリーの変容」

報告者 豊山亜希（本研究所客員研究員、国立民族学博物館外来研究員）

共催 日本文化人類学会東北地区研究懇談会

二〇一三年九月二十八日（土）午後一時三〇分より午後五時三〇分（≪本学人文館五階A五四九大会議室〉）

「確かさを求めて―診察室で立ち現われる不確実性に医師と患者はいかに交渉するのか」

報告者 磯野真帆（早稲田大学文化構想学部助教）

「集合のリアリティ／個のリアリティ―アメリカの〈肥満問題〉から考える不確実性―」

報告者 碓陽子（金沢大学研究員）

二〇一三年二月二〇日（火）午後五時二〇分より午後六時三〇分（＝本学人文館五階A五四九大会議室）

「人びとをつなぎなおす震災下の伝統的生業―福島県会津若松市の青物小売りを事例に―」

報告者 佐治史（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科博士課程）

共催 日本文化人類学会東北地区研究懇談会

#### 四 所員消息

浅野 富美枝 教授

論文「東日本大震災とジェンダー視点から見た被災自治体職員」『女性労働研究』五八号、青木書店、二〇一四年一月）

エッセイ「三・一一と女性」『アスバラ』二〇一三年夏号、風恋舎、二〇一三年八月）

講演「女性が元気になる地域コミュニティ」宮城県各種女性団体連絡協議会第四六回宮城県女性大会、宮城県庁（二〇一三年一月一四日）他

シンポジウム「東日本大震災と女性の視点を活かした自治会活動」栗原市このはなさくや姫センター（二〇一三

年十一月九日)

「二年九か月後の女たち」エルパーク仙台(二〇一三年二月八日)

その他「二〇一二年労働年表 社会文化欄」法政大学 大原社会問題研究所編『日本労働年鑑二〇一三年版』

(旬報社、二〇一三年八月) 所収他

市野澤 潤 平 准教授

論文(小河久志との共著)「タイ南部沿岸における観光開発と漁業——プラチュワップキーリカン県バーンサバーン湾を事例として」(『宮城学院女子大学研究論文集』一一六号)

学会発表「自己と〈異物〉の見えない関係——身体と外部との「境界」をめぐる不確実性(分科会イントロダクション)」日本文化人類学会第四七回研究大会(二〇一三年六月八日、慶応大学)

学会発表「〈浸潤〉される身体をめぐる不確実性と累積的リスク——観光ダイビングの経験における減圧症の問題」日本文化人類学会第四七回研究大会(二〇一三年六月八日、慶応大学)

その他「風評災害に立ち向かおう——インド洋津波に襲われたプーケットの経験に学ぶ」総合観光学会編『復興ツーリズム——観光学からのメッセージ』同文館出版

その他「タイ人の微笑み」吉原和男ほか編『人の移動事典——日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版  
海外調査「タイにおけるダイビング観光に関する現地調査」(タイ、二〇一三年四月二五日～五月二二日)

海外調査「タイにおけるダイビング観光に関する現地調査」(タイ、二〇一三年七月一日～二二日)

海外調査「タイにおける災害と観光に関わる現地調査」(タイ、二〇一三年二月二〇日～二〇一四年一月一三



日)

海外調査「総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上」プロジェクトに  
関わる現地調査」(タイ、二〇一四年三月二日～三〇日)

今 林 直 樹 教授

論文「革命はカフェから始まる―フランス革命とカフェ―」(『人文社会科学論叢』二十三号、二〇一四年三月)  
書評「与那原恵『首里城への坂道―鎌倉芳太郎と近代沖縄の群像』(筑摩書房、二〇一三年)を読む」(『沖縄研  
究ノート』二十三号、二〇一四年三月)

シンポジウム「革命はカフェから始まる―フランス革命とカフェ―」(二〇一三年十一月二日、於 日立システ  
ムズホール仙台)

報告「坂本繁二郎のフランス体験―一九二一年～二四年―」宮城学院女子大学(二〇一四年二月十九日)

井 上 研一郎 教授

調査報告「各ジャンルの動向―日本画」(『宮城県芸術年鑑』第四十二巻・平成二四年度)二〇一三年四月 宮城  
県環境生活部消費生活・文化課)

講演「徘徊するアイヌ幻像―『夷酋列像』と高山彦九郎」高山彦九郎記念館 太田市九合行政センター(二〇一  
三年五月一九日)

講演「三岸好太郎の『新しさ』―札幌・東京・上海・パリ―」北海道立三岸好太郎美術館(二〇一三年九月一四  
日)

調査「宮城県内日本画家の作品に関する調査」(仙台市青葉区A氏宅・二〇一三年三月一五日)

調査「現代アイヌ・アートに関する作品調査」(北海道立近代美術館・二〇一三年三月一九日)

調査「画家富樫正雄の作品に関する調査」(市立小樽市美術館・二〇一三年三月二〇日)

調査「亘理町E家津波被災資料の調査」(宮城県亘理町郷土資料館・二〇一三年三月二八日)

調査「福島県立歴史資料館所蔵の蠣崎波響作品に関する調査」(福島県立歴史資料館・二〇一三年一〇月九日)

(北海道松前町教育委員会の依頼による)

菊池 勇 夫 教授

著書『アイヌと松前の政治文化論―境界と民族』(校倉書房、二〇一三年五月)

編著『地方史・民衆史の継承―林史学から受け継ぐ―』(芙蓉書房出版、二〇一三年一月) ※「編集にあつ

て―林史学から学ぶこと」 「弘前藩青森・外ヶ浜の天明の飢饉」執筆

論文「救済をめぐる公権力と地域社会―天保飢饉下の八戸藩」 『歴史評論』七五八、二〇一三年六月

論文「松浦武四郎『蝦夷日誌』にみる松前・蝦夷地の沿海社会―一八四〇年代の様相―」 『近世・近代における

日本列島の沿海社会と海運』 関西大学・東アジア沿海科研(研究代表野間晴雄、二〇一四年三月)

論文「飢饉死のリアリティー―仙台藩天保七・八年の飢饉の場合―」 『研究年報』四七、宮城学院キリスト教文

化研究所、二〇一四年三月)

論文「神仏のいる「林」『環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究』(平成24年度研究成

果報告書、東北芸術工科大学東北文化研究センター、二〇一三年三月)

論文「万延元年蝦夷地場所引継文書の紹介と検討―仙台藩分領、特にクナシリ場所を中心に―」（平成22～25年度科学研究費基盤研究A『中近世北方交易と蝦夷地内国化』研究成果報告書、二〇一三年三月、研究分担者。研究代表・弘前大学関根達人）※公開シンポジウム（二〇一三年一〇月六日、北海道大学学術交流会館）において同タイトルの概要報告行う。

評論「提言・過去と現在を行き来する災害史研究―近世の飢饉研究から―」（『歴史学研究』九一六、二〇一四年三月）

報告「佐藤達家文書にみる馬関係文書」平成24年度骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会、一関市若神子亭展示棟内シアター（二〇一三年三月一七日）

講義「近世東北の災害・飢饉と復興〈復興の思想5・6〉」（復興大学、学都仙台コンソーシアム、アエル・オフイスフロア7階（二〇一三年五月二五日・六月一日）

講演「『軽邑耕作鈔』・『遺言』の歴史的価値―飢饉の備えと農業経営を中心に―」（軽米町教育委員会主催、軽米町農村環境改善センター（二〇一三年六月一六日）※同内容の講義を安藤昌益と千住宿の関係を調べる例会会、二〇一三年一月二二日、東京芸術センター第1会議室においても行う。

講義「近世の飢饉・災害について考える―東北地方（八戸藩）の飢饉を中心に―」（國學院大學オープンカレッジ「語りの文化講座」、國學院エクステンションセンター（二〇一三年七月一三日）

講義「近世東北の飢饉―秋田藩を中心に―」（秋田県生涯学習センター（二〇一三年九月七日）  
講話「仙台藩にみる天明の飢饉―天災？人災？災害の実態を知る―」（仙台市福室市民センター（二〇一三年八月

三日)

講義「農山村の生業と環境―大豆と馬を中心に―」八戸市史講座、八戸市立図書館(二〇一三年十二月一四日)

※本学実施の生涯教育講座等は省略

木村 春美 准教授

著書(共著)“Cooperative learning and teaching” TESOL 37(5) 2013

論文“A case for iterative practice: Learner voices” The Language Teacher 37(5) 2013

研究ノート“Self-awareness of L2 listeners and listening fluency development” Independent Learning Association Conference Selections 2013

研究ノート“Interlanguage: 40 years and later” The Language Teacher 37(5) 2013

書評“Second language acquisition myths: Applying second language research to classroom teaching by Steven

Brown & Jenifer Larson-Hall” JALT Journal 35(2) 2013

書評“Language curriculum design by I.S.P. Nation & John Macalister” Teachers College Record Feb 1, 2013

学会報告“Emergence of group autonomy through SAC activities” JALT Kobe Oct 26-28, 2013

学会報告“(In) civility toward groupmates: A pilot study” Tohoku ELT Expo Nov 24, 2013

九里 順子 教授

著書『室生犀星の詩法』(翰林書房 二〇一三年七月)

著書『静物』(邑書林 二〇一三年七月)

報告「暮鳥の青空——風景の中の詩人——」二〇一三年度第二回人文社会研究所研究会（二〇一三年七月二五日  
一五時四〇分～一七時）

松浦光和 教授

論文「大学のカウンセリング教育の効果についての研究」（宮城学院女子大学研究論文集）一一七号、二〇一三年一二月）

大平 聡 教授

評論「地域資料としての『被災資料』そして学校資料」『LINK【地域・大学・文化】』（神戸大学大学院人文学  
研究科地域連携センター年報）第五号 二〇一三年一月

講演等「学校文書の諸問題」いわて高等教育コンソーシアム 大学等における地域復興のためのセンター的機能  
整備事業シンポジウム「東日本大震災の検証と来るべき震災の備えへの提言」資料保存と救済のあり方から」  
ホテルイズ（二〇一三年三月一七日）

講演等「聖徳太子の構想——『日本書紀』編纂の意図を探る」宮崎産業大学法学部「古事記 日本書紀 編さん」

三〇〇年記念関連公開講座 宮崎産業大学（二〇一三年一〇月一二日）

講演等「地域資料としての学校資料」新潟大学災害・復興科学研究所危機管理・災害復興分野主催災害資料シン  
ポジウム 新潟大学（二〇一三年二月八日）

講演等「厩戸皇子立太子の構想」日本史研究会古代史部会 日本史研究会事務所（二〇一四年二月一五日）

講演等「安倍氏と鳥海の柵」国指定史跡鳥海柵跡シンポジウム 金ヶ崎町中央生涯教育センター（二〇一四年三

月二一日)

調査

登米市(登米市教育委員会・登米市歴史博物館との共同事業)

五月三一日 登米市立登米小学校資料調査

六月二一日 登米市立浅水小学校資料整理第一回、登米市立米谷小学校資料整理第一回

六月二七日 登米市立米谷小学校資料整理第二回

六月二八日 登米市立新田小学校・中学校資料整理、登米市立米岡小学校資料整理

七月五日 登米市立加賀野小学校資料整理、登米市立上沼小学校資料整理

七月二二日 登米市立柳津小学校資料整理、登米市立横山小学校資料整理、登米市立米谷小学校資料整理

第三回

七月一九日 登米市立豊里小・中学校資料整理

七月二六日 登米市立南方小学校資料整理、登米市立南方中学校資料整理

八月二日 登米市立西郷小学校・東郷小学校資料整理

八月五日 登米市立浅水小学校資料整理第二回

八月六日 登米市立石越小学校資料整理

八月七日 登米市立石森小学校資料整理

八月九日 登米市立津山中学校資料整理

- 八月二三日 登米市立北方小学校・中津山小学校資料整理
- 八月三〇日 登米市立米山東小学校資料整理
- 九月九日 登米市立中津山小学校資料調査
- 九月一七日 登米市立石森小学校資料保全作業
- 九月二〇日 登米市立佐沼中学校資料調査
- 九月二七日 登米市立中田中学校資料調査、登米市立石越小学校第二回調査
- 一〇月四日 登米市立石越小学校第三回調査
- 一〇月二五日 登米市立米川小学校第一回調査
- 一一月二九日 登米市立米川小学校第二回調査
- 一二月一七日 登米市立南方中学校資料保全作業
- 三月三日・四日 登米市立佐沼小学校資料調査
- 気仙沼市（気仙沼教育委員会との共同事業）
- 七月三〇日 気仙沼小学校資料搬出作業
- 八月二〇日 気仙沼小学校資料、東北歴史博物館搬入
- 九月一日 気仙沼小学校資料、東北博物館より搬出、旧月立中学校校舎に搬入
- 二月二六日 階上小学資料調査
- 三月六日 落合小学校資料調査

三月二日 馬籠小学校資料調査

色麻町（色麻町教育委員会との共同事業）

一月八日 色麻小学校資料調査

一月二八日 清水小学校資料調査・保全作業

七ヶ宿町（七ヶ宿町教育委員会との共同事業）

一月二二日 湯原小学校資料調査

多賀城市（多賀城市教育委員会からの委託事業）

多賀城市立山王小学校・多賀城小学校の日誌調査

### 社会的活動

岩手県金ヶ崎町鳥海柵発掘調査指導委員会副委員長 二〇一三年七月～

多賀城市文化財保護委員 二〇一三年一月～

東北歴史博物館協議会委員 二〇一三年九月一日～

### 新免 貢 教授

論文『ユダ福音書』論（本学『キリスト教文化研究所研究年報四六号』一～六六頁、二〇一四年三月）

論文「キリスト教とユダヤ教との対話の再構築に向けて」（『ヨーロッパ文化史研究』 第一五号東北学院大学ヨ一

ロッパ文化総合研究所、四五～七二頁、二〇一四年三月）

著書（共著）新免貢・菅澤邦明『世界の終りの為の備忘録』（第四、五分冊、兵庫県南部大地震ボランティアセ



ンター発行、二〇一三年四月二八日、同七月一七日)

訳書(共訳) エレース・ペイゲルス、カレン・L・キング著『ユダ福音書』の謎を解く、河出書房新社、二〇一三年十月二十三日

エッセイ 訳者ノート「現代にふさわしいキリスト教を再構築するために」(『ユダ福音書』の謎を解く)、河出書房新社、二四五〜二五一頁、二〇一三年)

講演記録「これからの世界に立ち向かうために——伝統の刷新——」(日本キリスト教団姫路教会 創立百三十年記念講演、二〇一三年三月三十一日、三〜二〇頁)

研究発表『ユダ福音書』における犠牲システム批判」(第七二回日本宗教学会学術大会研究発表、國學院大學、二〇一三年九月七日)

講演「これからの世界に立ち向かうために——伝統の刷新——」(日本キリスト教団姫路教会 創立百三十年記念講演、二〇一二年三月一二日)

講演「三・一一後の教会はどこに向かうか——転換に向けての緊急の問い——」(日本基督教団奥羽教区北西地区教師研修会、浅虫温泉海扇閣(二〇一三年八月一九〜二〇日))

講演「石巻が生んだ弁護士・布施辰治の死——」(神戸新聞カルチャーセンター講座『死』を考える〜人生をかへがえないものにするために)、神戸三宮KCC会館(二〇一三年八月二六日)

講演「私が生きる時代と新約聖書——ヘシエルの問いに触発されて——」(関西神学塾特別講座、日本基督教団西宮公会同教会集会室(二〇一三年九月一四日午前九時))

講演「大学教育現場からの嘆きと希望」日本脱カルト協会公開講座「災地をねらうカルト?——大学やコミュニティでとるべき対策とは——」、日本基督教団青葉荘教会(二〇一三年九月一四日)。

講演「大学教育現場からの嘆きと希望」日本基督教団東北教区カルト問題対策特設委員会主催「カルト対策研修会」、岩松旅館別館(二〇一三年十月二十八日)

講演「被災地を歩いてく見えてくる現実」日本基督教団兵庫教区、同被災者生活支援長田センター、兵庫県南部大地震ボランティアセンター共催セミナー「東北の震災から三年目を迎えるにあたって」、二〇一四年三月一日、日本基督教団神戸教会)

実地調査・ヒアリング あすと長町仮設住宅における現況調査(二〇一三年六月七日他、計四回)

ふくしま集団疎開裁判に関する資料収集(二〇一三年六月一七日、仙台市市民活動サポートセンターセミナーホール)

広島における平和運動の取り組みに関する資料収集(二〇一三年七月一二〜一四日、広島女学院大学、原爆記念公園など)

原発事故の責任を問う市民運動に関する資料収集(福島原発告訴団主催イベント「強制捜査はまだか!!告訴受理から一年を迎えて」、いわき市民文化センター、二〇一三年八月四日)

日本科学者会議・第三四回原子力発電問題全国シンポジウムin福島における資料収集(二〇一三年八月二四日)

石巻市渡波・門脇地区内の神社、寺院、ハリストス教会の被災状況実地調査、牡鹿新聞社取材(二〇一三年

九月二日他、計三回)

石巻市立町復興ふれあい商店街における復興状況実地調査(二〇一三年一月二七日)

南相馬市小池第一応急仮設住宅入居者に対する聴き取り調査、福島第一原発より二十キロメートル地点付近における被災状況調査(二〇一四年二月七日)

アイヌ民族の権利回復に関する資料調査(二〇一四年三月三〜四日、日本基督教団北海教区センター)

カルト問題対策に関する資料収集(二〇一四年三月七〜八日、日本脱カルト協会総会、立正大学)

基地問題に関する資料収集(二〇一四年三月十三〜十四日、琉球新報社・社会部)

杉井 信 准教授

論文「米軍統治下沖縄からフィリピンに渡った女性たち——そのフィリピン定着についての一考察——」(『沖縄研究ノート』二三号、本学キリスト教文化研究所、二〇一四年三月刊行予定)

海外調査「バギオ日本人移民一〇周年記念式への参加と観察」二〇一三年九月一三〜一六日、フィリピン、バギオ市

共同調査(沖縄)、二〇一三年一月二〇〜二三日

講演「フィリピンの歴史と文化」仙台東高校平成二五年度大学模擬授業、二〇一四年二月一三日

田中 一裕 教授

論文(共著)“Seasonal life cycle of *Zatyphola albicoxa* (Hymenoptera: Ichneumonidae), an ectoparasitoid of *Parasteatoda tepidariorum* (Araneae: Theridiidae), in southwestern Japan.” (Pacific Science, 67: 105-111,

February 2013)

論文「野外ではたらく昆虫の概日時計」(『昆虫と自然』四八巻四〜八頁、ニューサイエンス社、二〇一三年一月)

講演「家の周りを観察しよう―蜘蛛の世界―」東松島市コミュニティセンター(二〇一三年一月六日)

学会報告「光条件(全暗・全明)が温度周期下でのタマネギバエの羽化リズムに及ぼす影響」日本応用動物昆虫学会、日本大学(二〇一三年三月二十八日)

学会報告“Diel activity pattern of the wolf spider, *Pardosa astrigera* under semi-natural conditions”, 19th International Congress of Arachnology, Howard Resort Hotel (Taiwan) (二〇一三年六月二十四日)

学会報告「ウツキコモリグモは典型的な昼行性種だが、昼も夜も餌を捕る」日本昆虫学会東北支部会、蔵王温泉ホテル樹林(二〇一三年七月二十七日)

学会報告“Why the onion fly avoids daytime adult eclosion?”, 5th International Symposium on the Environmental Physiology of Ectotherms and Plants, Western University Ontario (Canada) (二〇一三年八月十五日)

学会報告「昼行性ウツキコモリグモは昼も夜も餌を捕る」日本蜘蛛学会、高知大学(二〇一三年八月二十四日)

学会報告「日中の高い砂温はタマネギバエ新成虫の地上脱出を妨げる」日本昆虫学会、北海道大学(二〇一三年九月十五日)

土屋 純 教授

編著『小商圏時代の流通システム』(古今書院、二〇一三年三月)

監著『帝国書院地理シリーズ・日本のすがた・東北地方』（帝国書院、二〇一三年二月）

共著「津波被災地における地域商業の復旧とその課題…陸前高田市における仮設店舗の展開を中心に」（東北大学大学院経済学研究科・地域産業復興調査研究プロジェクト編『東日本大震災復興研究Ⅱ東北地域の産業・社会の復興と再生への提言』、二〇一三年三月）

論文「デリー首都圏（NCR）におけるショッピングモールの発展と外資系小売業の参入」（広島大学現代イン  
ド研究・空間と社会、第三号、二〇一三年三月）

学会報告「バングラデシユの農村地域における定期市の変貌…一九八六年調査（石原一九八七、石原・溝口二〇  
〇六）との比較」日本地理学会春期学術大会・立正大学（二〇一三年三月三〇日）

学会報告「東日本大震災後における陸前高田市の都市構造再編」地理学会秋期学術大会・福島大学（二〇一三年  
九月二九日）

豊澤 弘 伸 教授

論文「幼児語としてのオノマトペ」（『月刊国語教育研究』四九六号、日本国語教育学会、二〇一三年八月）  
八木 祐子 教授

研究ノート「北インド農村の生活とジェンダー」（『経済』No.213、九〇～九五頁、新日本出版社、二〇一三年六月）  
研究会発表「身体性に刻まれた社会変容―北インド農村における女神信仰と儀礼」、現代インドプログラム『現  
代インドにおける文学・運動・ジェンダー』、東京外国語大学本郷サテライト（二〇一三年七月七日）

海外調査 北インド、デリー市、ウツタル・プラデーシュ州ヴァラナシ市 二〇一三年八月二六日～九月二二日

文部科学省科学研究費基盤研究(B)「生活世界の変容とジェンダー…インド高齡女性のライフ・ヒストリーを通して」に関する調査

海外調査 北インド、ウッタール・プラデーシュ州ヴァラナシ市及びアザムガル県 二〇一四年二月一七日～三月

一日 インド高齡女性へのインタビュー調査

吉村典子 教授

論文 “British Art Nouveau Tiles as Household Identity Signifiers,” *comp Defacet* (Art Nouveau European Route magazine, 2013)

[http://www.artnouveau.eu/en/congress\\_mainstrands.php](http://www.artnouveau.eu/en/congress_mainstrands.php)

論文「ベイリー・スコットの住宅にみる私的住まいの成立過程」(『デザイン学研究』、三月号 六〇巻六号、二〇一四年)

論文「北部アーツ・アンド・クラフツの形象としての田園詩」(『英文学会誌』、宮城学院女子大学学芸学部英文学会、二〇一四年三月)

出版『ヴィクトリア時代の室内装飾』(LIXII 出版、二〇一三年五月)

編集『デザイン理論』六十二号 意匠学会 二〇一三年七月

学会口頭発表 “British Art Nouveau Tiles as Household Identity Signifiers,” CDF International Congress, Barcelona University, Spain (June 2013)

講演「岩崎邸のヴィクトリアン・タイル」旧岩崎邸博物館、東京(二〇一三年一〇月)

講演「ヴィクトリア時代のインテリア」、ヴィクトリア時代の室内装飾展記念講演、グランフロント、大阪（二〇一三年一〇月）